

第1章 福島県中通り地方流域の特性と健全な水循環の必要性

1.1 福島県中通り地方流域の概要・特性

奥羽山脈と阿武隈高地の間にある中通り地方の大部分は、那須連峰を源流とする阿武隈川の流域に含まれ、丘陵地と盆地が交互に連なっています。また、県南の東白川地方一帯が八溝地域を源流とする久慈川流域となっており、西白河地方の一部に那珂川流域があります。

奥羽山脈から発する荒川など阿武隈川の西側の川は、大量の砂礫を運んで多くの扇状地をつくり、阿武隈川を東に押しやっています。また、扇状地は水を伏流させ、郡山盆地や福島盆地の地下に、豊富な地下水を供給しています。

中通り地方は他の地域に比べ年間を通して降水量が少ないため、先人は安積疏水や羽鳥用水などの大規模な導水施設やため池などを築造し、水を引き、蓄えて用水を確保してきました。

(出典：うつくしま「水との共生」プラン 3-1(4)②(7頁))

いくつもの源流の水がまちの営みを支える、中通り

丘陵地と盆地が交互に連なる流域



奥羽山脈



盆地を流れる阿武隈川



福島盆地



郡山盆地

先人の技術による水利用



羽鳥ダム



盆地に広がる豊かな水田



麓山の飛瀑(安積疏水)



十六橋水門(安積疏水)



岡山の水かき祭り(福島市)



豊かな水を使う紙漉き

豊かな水が織り成す伝統文化



1.2 健全な水循環の維持・回復の必要性

本県は多くの河川や湖沼、湧水などの豊かな水環境と、水源をかん養する多様で豊かな森林に恵まれています。

また、河川の水源のほとんどが県内にあるという源流県であり、本県の水との関わり方が下流の県や海に直接影響を及ぼす点からも、源流県としての水環境を保全する責任は大きいものがあります。

近年、地球環境の変化と考えられる洪水や渇水の発生などの自然災害リスクの増加、農業・農村や森林の持つ多面的機能の低下、化学物質による水の汚染、生態系の変化、さらには人々の水に対する関心の低下などの変化は流域の水循環※1に対する負荷を増大させており、このままでは本県の健全な水循環※2が阻害されるおそれがあります。

私たちには、本県の豊かな水環境を保全し、健全な水循環を将来に継承するという責務があります。このため、県民一人一人が水に関心を持ち、水に関する将来像を共有して、小さな事から取組を始めることが大切です。

また、大きな川の流域は、小さな川の流域が集まって形成されており、水の問題に取り組む際には身近な流域から始めるとともに、上流と下流の流域の住民や、県を始めとする行政機関などが広域的に連携して進めていくことが重要です。

これらの取組を一層効果的に進めるためには、有識者や団体等の関係者が幅広く連携し、実践的に問題の解決を図る必要があります。

(出典：うつくしま「水との共生」プラン 1-2、1-3(4)②(1-2頁))



水循環イメージ

※1 水循環

水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環すること。

※2 健全な水循環

人の活動及び環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環。